

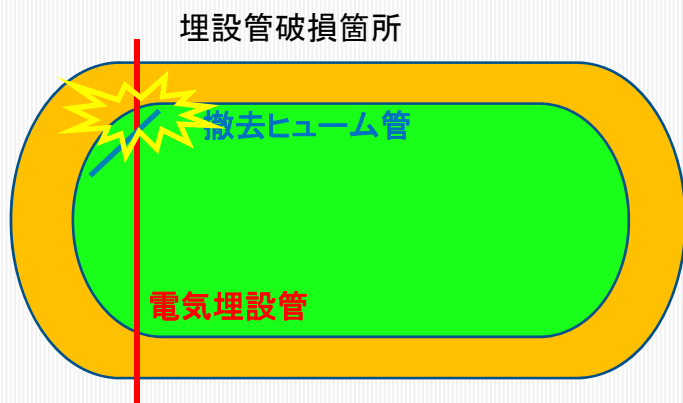
工事事故防止行動計画

ニュースレター

工事事故「0」を目指して

運動競技場での埋設管破損事故！

【令和2年1月27日事故発生】



【被害】

- ・埋設防護管(φ100)損傷 4本
- ↓
- ・工事中断 8日間
- ・公衆損害で「減点」

埋設電気線(防護管材は全てFEP100)

- ①ピストルA } 1本
- ピストルB } 1本
- インカム } 1本
- ②電源 1本
- ③予備 1本
- ④予備 1本

●事故概要

・運動競技場の補修工事において、暗渠管取壊しのため、バックホウによる掘削作業中、埋設されていたピストル用通信及び電源の防護管4本を破損した。

●事故原因

・施工に先だち、取壊し撤去対象のヒューム管調査は行ったものの、電気関係の埋設物調査は行われておらず、埋設物はないと思い込みバックホウ(0.4m3級)で掘削作業を行った。
 ・掘削作業では手元合図者を配置していたが、埋設標識シートや電線防護管に気が付かず、バケツで電線防護管を破損させた。

●再発防止策(概要)

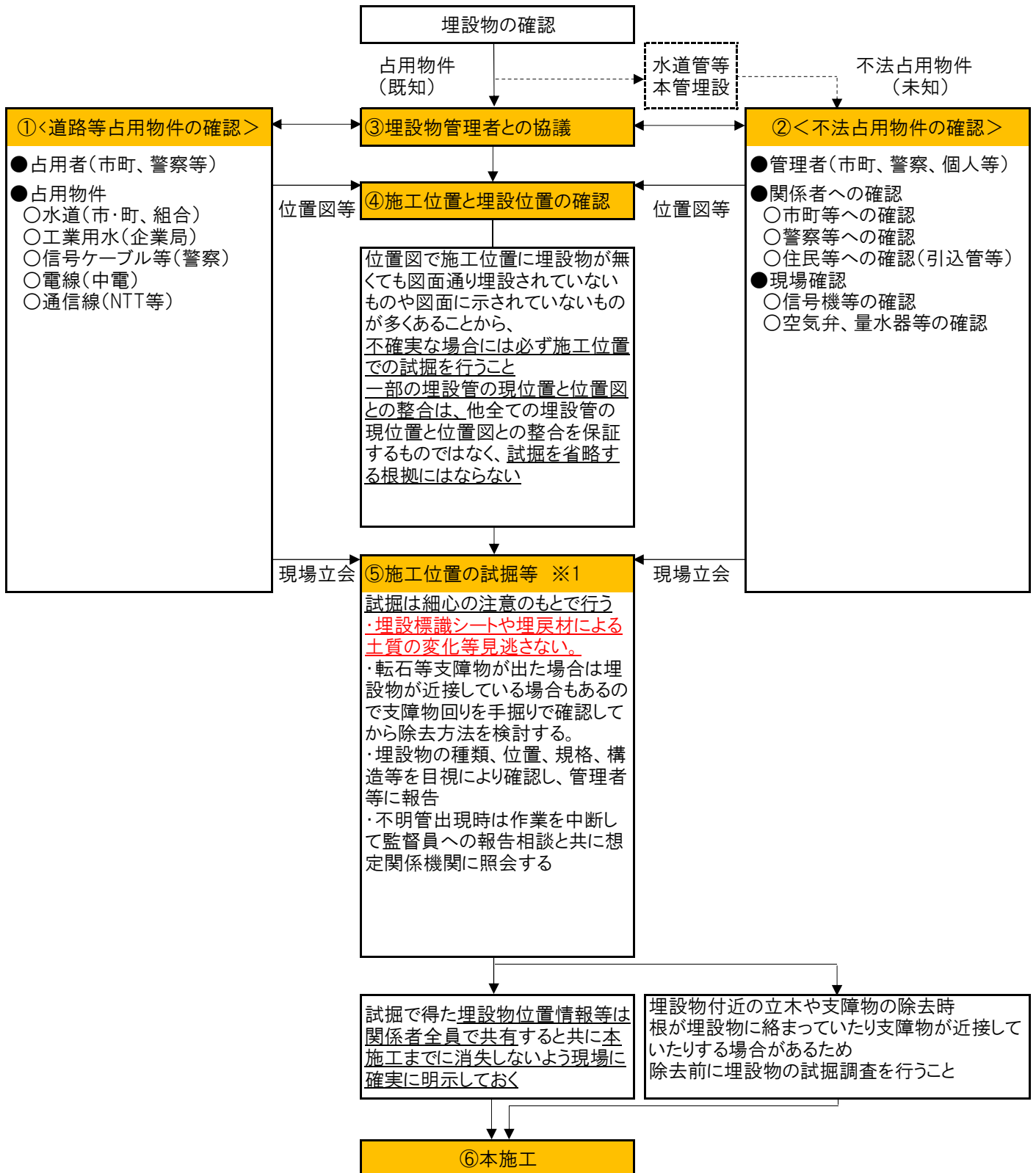
・事前に施設管理者に埋設が想定される施設を確認し、収集情報では位置が不確かな場合には、施設管理者立会のもと、試掘を行う。
 ・試掘は、手元合図者を付け、埋設標識シートや埋戻材等の掘削土の変化等、埋設物の存在を想定させるものを見逃さないよう細心の注意のもとで行う。

【詳細な再発防止策】は、裏面参照⇒

交通基盤部 土木工事 事故発生件数	事故分類	工事関係者(死亡)	工事関係者(傷害)	第三者(傷害)	第三者(物損)	工事事故合計	令和2年 1月末現在 (前年同期)
	件数	1件(0)	3件(2)	0件(2)	22件(27)	26件(31)	

道路等施工(掘削、杭打等)時の埋設物事故防止のための埋設物確認フロー(Ver.5)

本事案を踏まえ、ニュースター11号掲載の埋設物確認フローVer.4の追加修正を行いましたので今後はこれを参考にしてください。



今回の施工現場は運動競技場ですが、埋設管破損防止のための事前確認の考え方は道路と変わらないものと考えられます。

上記フローで本事案の手順を確認すると①②⑤の対応が適切に行われなかったため、事故につながりました。